

8. 保険会社及びその子会社等の状況

(1) 主要な業務の状況を示す指標

(単位：百万円)

項 目	平成20年度第3四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年12月31日)
経 常 収 益	3,893,270
経 常 利 益	9,631
四 半 期 純 剰 余	59,919

項 目	平成20年度第3四半期 連結会計期間末
総 資 産 額	30,594,772

平成19年度末
31,941,710

(2) 連結範囲及び持分法の適用に関する事項

連結される子会社及び子法人等社数	3 社
持分法適用非連結子会社及び子法人等社数	0 社
持分法適用関連法人等社数	3 1 社
期中における重要な子会社等の異動について (連結財務諸表の作成方針)をご参照ください。	

(3) 四半期連結貸借対照表

(単位:百万円)

期 別 科 目	平成20年度 第3四半期連結会計期間末 (平成20年 12月 31日現在)	平成19年度末 要約連結貸借対照表 (平成20年 3月 31日現在)
	金額	金額
(資産の部)		
現金及び預貯金	187,810	208,107
有価証券	373,710	226,860
債権	—	47,273
買入金	331,186	316,767
商品	112,915	46,663
金銭の信託	30,097	25,223
有価証券	22,691,411	24,368,043
貸付金	4,362,747	4,647,912
有形固定資産	1,234,987	1,239,249
無形固定資産	106,397	102,029
再保険	119	123
その他の資産	598,248	546,964
繰延税金資産	554,239	163,962
支払倒引当金	20,146	18,835
投資損失引当金	△ 9,245	△ 12,351
資産の部合計	30,594,772	31,941,710
(負債の部)		
保険契約準備金	28,059,454	28,350,278
支払準備金	154,161	156,722
責任準備金	27,534,766	27,840,017
社員配当準備金	370,526	353,538
再保険	614	546
その他の負債	45,502	50,080
退職給付引当金	1,001,438	1,103,766
役員退職慰労引当金	498,524	482,321
時効保険金等払戻引当金	864	1,200
価格変動準備金	814	1,000
繰延税金負債	101,471	221,458
再評価に係る繰延税金負債	320	204
支払承諾	125,578	126,001
負債の部合計	20,146	18,835
負債の部合計	29,854,730	30,355,694
(純資産の部)		
基金償却積立金	120,000	120,000
再評価積立金	300,000	300,000
連結剰余金	248	248
基金等合計	238,818	269,339
その他の有価証券評価差額金	659,067	689,587
繰延ヘッジ損益	137,583	957,565
土地再評価差額金	26	—
為替換算調整勘定	△ 62,222	△ 61,500
評価・換算差額等合計	△ 675	△ 553
少数株主持分	74,711	895,510
純資産の部合計	6,263	917
純資産の部合計	740,042	1,586,016
負債及び純資産の部合計	30,594,772	31,941,710

(4) 四半期連結損益計算書

(単位:百万円)

科 目	期 別	平成20年度 第3四半期連結累計期間 〔平成20年 4月 1日から 平成20年 12月 31日まで〕
		金額
経 常 収 益		3,893,270
保 険 料 等 収 入		2,470,422
資 産 運 用 収 益		918,850
(うち利息及び配当金等収入)	(	546,067)
(うち商品有価証券運用益)	(	1,208)
(うち有価証券売却益)	(	299,643)
(うち金融派生商品収益)	(	62,654)
そ の 他 経 常 収 益		503,997
経 常 費 用		3,883,639
保 険 金 等 支 払 金		1,914,042
(うち保険金)	(	640,800)
(うち年金)	(	275,929)
(うち給付金)	(	367,271)
(うち解約返戻金)	(	494,506)
責 任 準 備 金 等 繰 入 額		8,250
社 員 配 当 金 積 立 利 息 繰 入 額		8,250
資 産 運 用 費 用		1,272,825
(うち支払利息)	(	7,423)
(うち金銭の信託運用損)	(	5,451)
(うち有価証券売却損)	(	387,661)
(うち有価証券評価損)	(	455,323)
(うち特別勘定資産運用損)	(	303,418)
事 業 費 用		337,498
そ の 他 経 常 費 用		351,022
経 常 利 益		9,631
特 別 利 益		124,085
固 定 資 産 等 処 分 益		847
貸 倒 引 当 金 戻 入 額		3,084
償 却 債 権 取 立 益		165
価 格 変 動 準 備 金 戻 入 額		119,987
そ の 他 特 別 利 益		1
特 別 損 失		3,562
固 定 資 産 等 処 分 損		1,375
減 損 損 失		1,308
そ の 他 特 別 損 失		878
税 金 等 調 整 前 四 半 期 純 剰 余		130,154
法 人 税 及 び 住 民 税 等		570
法 人 税 等 調 整 額		72,194
少 数 株 主 損 失		2,530
四 半 期 純 剰 余		59,919

(5) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	平成20年度第3四半期連結累計期間 〔平成20年 4月 1日から 平成20年 12月 31日まで〕
科目	金額
I 営業活動によるキャッシュ・フロー	
税金等調整前四半期純剰余	130,154
減価償却費	22,529
減損損失	1,308
支払備金の増加額 (△減少額)	△ 2,559
責任準備金の増加額 (△減少額)	△ 304,418
社員配当準備金積立利息繰入額	8,250
貸倒引当金の増加額 (△減少額)	△ 3,075
投資損失引当金の増加額 (△減少額)	△ 3,955
償却債権取立益	△ 165
貸付金償却	672
退職給付引当金の増加額 (△減少額)	16,229
役員退職慰労引当金の増加額 (△減少額)	△ 315
時効保険金等払戻引当金の増加額 (△減少額)	△ 185
価格変動準備金の増加額 (△減少額)	△ 119,987
利息及び配当金等収入	△ 546,067
有価証券関係損益 (△益)	837,683
支払利息	7,423
有形固定資産関係損益 (△益)	527
商品有価証券の増加額 (＋減少額)	△ 66,251
その他	105,620
小 計	83,419
利息及び配当金等の受取額	596,527
利息の支払額	△ 5,843
社員配当金の支払額	△ 80,490
その他	162,831
法人税等の支払額	△ 58,567
営業活動によるキャッシュ・フロー	697,877
II 投資活動によるキャッシュ・フロー	
買入金銭債権の取得による支出	△ 34,484
買入金銭債権の売却・償還による収入	50,041
金銭の信託の増加による支出	△ 15,500
金銭の信託の減少による収入	5,000
有価証券の取得による支出	△ 13,566,465
有価証券の売却・償還による収入	12,770,489
貸付けによる支出	△ 400,927
貸付金の回収による収入	684,832
その他	503
II① 小 計	△ 506,509
(I + II①)	(191,368)
有形固定資産の取得による支出	△ 15,931
有形固定資産の売却による収入	1,959
その他	△ 20,526
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 541,007
III 財務活動によるキャッシュ・フロー	
借入金の返済による支出	△ 3
ファイナンス・リース債務の返済による支出	△ 33
基金利息の支払額	△ 2,328
少数株主からの払込みによる収入	10,000
その他	△ 3
財務活動によるキャッシュ・フロー	7,631
IV 現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 671
V 現金及び現金同等物の増加額 (△減少額)	163,829
VI 現金及び現金同等物期首残高	479,951
VII 連結の範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増加額 (△減少額)	△ 6,799
VIII 現金及び現金同等物第3四半期連結会計期間末残高	636,982

注記事項

(四半期連結財務諸表の作成方針)

平成 20 年度第 3 四半期連結累計期間

1. 連結の範囲に関する事項

連結の範囲から除外された会社 6 社

会社の名称および連結除外の理由

第一ライフ・インターナショナル（ヨーロッパ）(株)

第一生命カードサービス(株)

第一ライフ・インターナショナル（アジアパシフィック）(株)

第一ライフ・インターナショナル（U. S. A. ）(株)

(株)第一生命経済研究所

(株)第一生命ウェルライフサポート

質的および量的重要性の観点から、当連結会計年度の第 1 四半期連結会計期間より連結の範囲から除外しております。

第一ライフ・インターナショナル（アジアパシフィック）(株)は平成 20 年 9 月に第一ライフ・インターナショナル（香港）(株)が社名変更したものです。

第一ライフ・インターナショナル（ヨーロッパ）(株)は平成 20 年 9 月に第一ライフ・インターナショナル（U. K. ）(株)が社名変更したものです。

2. 持分法の適用に関する事項

新たに持分法適用会社となった会社 21 社

主要な会社の名称および理由

D I AMシンガポール(株)

オーシャンライフ(株)

タワー・オーストラリア・グループ(株)

D I AMシンガポール(株)は関連会社である D I AMアセットマネジメント(株)が平成 20 年 4 月に設立したことにより、当連結会計年度の第 1 四半期連結会計期間より持分法適用会社としております。

オーシャンライフ(株)は、平成 20 年 7 月に株式取得および平成 20 年 10 月に増資の引受けをしたことにより、当第 3 四半期連結会計期間より持分法適用会社としております。

タワー・オーストラリア・グループ(株)は平成 20 年 10 月に株式を取得したことにより、当第 3 四半期連結会計期間より持分法適用会社としております。

なお、同社の子会社および子法人等ならびに関連法人等 18 社についても、当第 3 四半期連結会計期間より持分法適用会社としております。

(四半期連結貸借対照表関係)

平成 20 年度第 3 四半期連結会計期間末

- 1 「リース取引に関する会計基準」(企業会計基準第13号 平成19年3月30日)および「リース取引に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第16号 平成19年3月30日)を当連結会計年度の第1四半期連結会計期間から早期に適用し、所有権移転外ファイナンス・リース取引(少額リース取引を除く)については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理から通常の売買取引に係る方法に準じた会計処理に変更し、リース資産として計上しております。
また、リース資産の減価償却の方法は、リース期間を耐用年数とし、残存価額をゼロとして算定する方法によっております。
なお、リース取引開始日が適用初年度前の所有権移転外ファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理を引き続き採用しております。
この結果、従来の方法によった場合に比べ、当第3四半期連結会計期間末にリース資産が有形固定資産に196百万円計上されており、リース債務がその他負債に196百万円計上されております。なお、経常利益および税金等調整前四半期純剰余への影響はありません。
- 2 従来、営業用不動産および動産に係る固定資産税および都市計画税は、賦課決定日に賦課決定額全額を費用処理しておりましたが、当連結会計年度から四半期開示が求められることを機に、より適正な期間損益計算を行うため、当第3四半期連結累計期間に対応する金額を費用処理しております。この結果、従来の方法によった場合と比べ、その他経常費用は839百万円減少し、経常利益および税金等調整前四半期純剰余は839百万円増加しております。
- 3 個人保険・個人年金保険、財形保険・財形年金保険、拠出型企業年金保険(ただし一部保険種類を除く)の小区分に対応した円貨建債券のうち、デュレーション・コントロールを目的として保有するものについて「保険業における「責任準備金対応債券」に関する当面の会計上及び監査上の取扱い」(日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第21号)に基づき、責任準備金対応債券に区分しております。
責任準備金対応債券の当第3四半期連結会計期間末における四半期連結貸借対照表計上額は、5,160,156百万円、時価は5,589,129百万円であります。
なお、ALM運用の更なる高度化へ向けて、個人保険・個人年金保険全体を一つの小区分として一体的なデュレーション・コントロールを行うことを目的に、当第3四半期連結会計期間より残存年数に基づき分割していた個人保険・個人年金保険からなる小区分を統合しております。この変更による損益への影響はありません。
- 4 「破綻先」、「実質破綻先」および現状、経営破綻の状況にはないが、今後経営破綻に陥る可能性が大きいと認められる債務者に対する債権以外の債権に対する貸倒引当金については、当第3四半期連結会計期間末の貸倒実績率等が中間連結会計期間末に算定したものと著しい変化がないと認められるため、中間連結会計期間末の貸倒実績率等を使用して算定しております。
- 5 有形固定資産の減価償却の方法は、年間減価償却費見積額を期間により按分し計上しております。有形固定資産の減価償却累計額は、620,688百万円であります。
- 6 消費貸借契約により貸し付けている有価証券の当第3四半期連結貸借対照表価額は、555,243百万円であります。
- 7 社員配当準備金の異動状況は次のとおりであります。

前連結会計年度末残高	353,538 百万円
前連結会計年度連結剰余金よりの繰入額	89,227 百万円
当第3四半期連結累計期間社員配当金支払額	80,490 百万円
利息による増加等	8,250 百万円
当第3四半期連結会計期間末残高	370,526 百万円
- 8 担保に供している資産の額は、有価証券581,755百万円、預貯金86百万円であります。また、担保付き債務の額は566,679百万円であります。
なお、上記には、現金担保付有価証券貸借取引により差し入れた有価証券555,243百万円および受入担保金566,649百万円をそれぞれ含んでいます。
- 9 当社は、前連結会計年度より、平成8年3月以前加入の終身保険のうち、保険料払込満了後契約(一時払契約を含む)を対象に、保険業法施行規則第69条第5項の規定により責任準備金を追加して積み立てることとし、既に保険料払込満了後となっている契約(一時払契約を含む)については、5年間にわたり段階的に積み立てることとしております。これにより、当第3四半期連結累計期間に積立てた額は、111,012百万円であります。
- 10 当社は、当連結会計年度の第1四半期連結会計期間より連結範囲の見直しを行いました。この結

果、当連結会計年度の第1四半期連結会計期間において、連結剰余金が904百万円減少しております。

- 1 1 連結される子会社および子法人等の増資による当第3四半期連結累計期間中の基金等の影響額は、連結剰余金の増加3,758百万円、連結剰余金の減少2,460百万円、少数株主持分の増加8,702百万円であります。

(四半期連結損益計算書関係)

平成 20 年度第 3 四半期連結累計期間	
1	一部の連結される子会社および子法人等の税金費用は、当第 3 四半期連結累計期間を含む年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じることにより算定しております。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

平成 20 年度第 3 四半期連結累計期間	
1	当第 3 四半期連結キャッシュ・フロー計算書における「現金及び現金同等物」の範囲は、当第 3 四半期連結貸借対照表上の「現金及び預貯金」、「コールローン」、「買入金銭債権」のうちコマーシャル・ペーパー、「有価証券」のうちMMF、および「その他負債」のうち当座借越（負の現金同等物）であります。
2	現金及び現金同等物の当第 3 四半期連結会計期間末残高と当第 3 四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係
現金及び預貯金	187,810 百万円
コールローン	373,710 百万円
買入金銭債権のうちコマーシャル・ペーパー	74,961 百万円
有価証券のうち MMF	500 百万円
現金及び現金同等物	636,982 百万円

(6) 子会社等である保険会社の保険金等の支払能力の充実の状況
(ソルベンシー・マージン比率)

・第一フロンティア生命保険株式会社

(単位：百万円)

項 目	平成20年度 第3四半期会計期間末	平成19年度末
ソルベンシー・マージン総額 (A)	123,989	41,036
資本金等	101,955	35,701
価格変動準備金	18	5
危険準備金	3,632	879
一般貸倒引当金	0	0
その他有価証券の評価差額×90%(マイナスの場合100%)	797	226
土地の含み損益×85%(マイナスの場合100%)	-	-
全期チルメル式責任準備金相当額超過額	17,586	4,223
負債性資本調達手段等	-	-
控除項目	-	-
その他	-	-
リスクの合計額 $\sqrt{(R_1+R_8)^2+(R_2+R_3+R_7)^2}+R_4$ (B)	14,474	3,978
保険リスク相当額 R_1	-	-
第三分野保険の保険リスク相当額 R_8	-	-
予定利率リスク相当額 R_2	0	0
資産運用リスク相当額 R_3	1,044	302
経営管理リスク相当額 R_4	421	115
最低保証リスク相当額 R_7	13,008	3,559
ソルベンシー・マージン比率 $\frac{(A)}{(1/2) \times (B)} \times 100$	1,713.2%	2,063.0%

(注) 1. 平成19年度末は、保険業法施行規則第86条、第87条、及び平成8年大蔵省告示第50号の規定に基づいて算出しています。

平成20年度第3四半期会計期間末は、これらの規定に準じて、当社が妥当と考える手法により算出しています。

2. 最低保証リスク相当額は、標準的方式を用いて算出しています。

(7) セグメント情報

当社並びに連結される子会社及び子法人等は、生命保険事業以外にコンピューターシステム開発、ソフトウェア開発等の事業を営んでいますが、当該事業の全セグメントに占める割合が僅少であるため、セグメント情報の記載を省略しています。